

「キャリア・パスポート」マニュアル(指導者用)

山口市立生雲小学校

はじめに

人が生きていく上で、夢やあこがれを抱くこと、志を持つことはとても大切である。生きていく源・エネルギーになる。わたしたちは、いくつになってもそうありたいものである。そのため、このマニュアルには、子どもだけでなく、大人のキャリア・パスポート（キャリアポートフォリオ）も一緒に掲載することとした。キャリア・パスポート（キャリアポートフォリオ）は、人を育てるという点（キャリア教育・人材育成）において、有効なツール（道具・手段）であると考えるからである。誰もがキャリア・パスポートを指導し、活用できるようにするためにこのマニュアルを作成した。

なお、本校では、小中高で使用するものをキャリア・パスポート（凝縮ポートフォリオ）、日常的に入れるオレンジファイルをキャリアアルバム（元ポートフォリオ）とよぶ。

1 キャリア・パスポート（キャリアアルバム）について



キャリア・パスポートは、一言で言うと「自己成長を促すツール」である。「自らのよさ」が見えるものや「夢や目標（なりたい人）」に向かって進む上で大切なものの（価値があると思うもの）が入っているファイルのことである。

キャリア・パスポートを実践することにより、自分のよさに気付いたり、他者から認められたり、自分で自分の成長を感じ取ったりすることで自己肯定感や自尊感情を高めることができる。このキャリア・パスポートに主体的に取り組み、毎年、実践を積み重ねることで、自らより成長したいという思い（願い）が育まれ、自己成長する人へと導かれる。

キャリア教育を推進する上で、ぜひとも有効活用したい教材（ポートフォリオ）である。キャリア・パスポートは一人一人のキャリア形成に有効に働きかけるものとなるはずである。

2 キャリア・パスポート（キャリアアルバム）のよさ

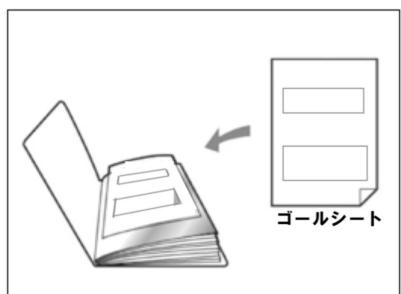
- 自分で自分をより高みに導くことができる。（自己成長できる）
- 自らを俯瞰できる。（メタ認知できる）
- その人自身がわかる。（他者に知ってもらえる・自己アピールできる）
- 自分の足跡（学び歴、仕事歴等）を振り返ることができる。
- 結果だけでなく、過程を評価できる。（教育・人材育成では重要）



3 入れるもの

(1) ゴールシート【大人用】 → [活用例 1]

- 目的（ビジョン）：何のために
 - 目標（ゴール）：何をやり遂げたいのか
- ※ 途中で書いててもよい、修正・書き加えもOK



【子ども用】

- | | |
|--|----------------|
| <input type="checkbox"/> よさや得意なこと、好きなこと | → 自分のよさを生かす |
| <input type="checkbox"/> 自分の夢やなりたい人、その理由 | → ○○をめざす、何のために |

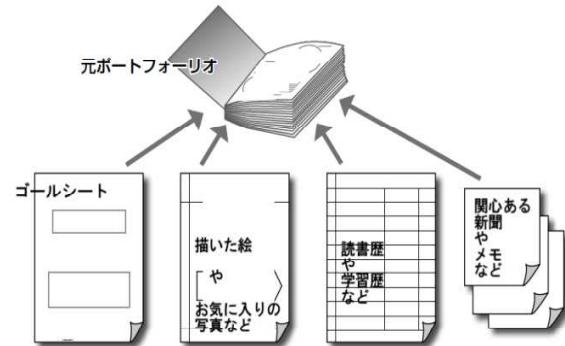
(2) 自分にとって価値あるもの（ビジョンとゴールを見据えて）を蓄積

- 学習歴（プリント、作品、絵、日記、○○新聞 等）
- 写真、新聞、チラシ、パンフレット
- 調べたもの
- 関心のあるもの
- 思い出のもの（手紙、はがき、広告、地図 等）
- 下書きやメモ、作成途中のもの（過程が大事）
- 自分が入れたいもの（好きなもの、よさが出ている、元気が出る、癒やされる）
- ※ 人と比べないことが大切（夢に向かって必要なものは、人によって異なる）



4 入れ方

- (1) はじめにゴールシートが見えるように入れる。
- (2) 時系列で入れる。
- (3) 入れたものに日付や出典を入れる。



5 管理

- (1) いつでもすぐに取り出せる場所に置く。（いつでも入れて、振り返られる）
- (2) 本人が自由に取り出せ、自由に入れられる。（指導した上で、入れたいものを入れる）
- (3) いつでも、指導者が見ることができるようにする。

6 活用に当たってのポイント

(1) 入れるものは自分にとって価値あるもの

入れるものは、自分のよさ（得意、好き、長所等）がわかるものやビジョン・ゴール（将来の夢・なりたい自分）のために価値があると思うものを入れる。 → 【活用例1】

(2) キャリアパスポートは入れるもの（書くものではない） → 【活用例2】

- いろいろなものが入っているのがよい。書いたものばかりに偏らないようにする。
(書くことが苦手な子もいる。)
 - ・文科省、県、学校で作成したシートの利用
 - ・自分のよさがわかるもの（描いた絵、写真、作品、新聞記事等）
 - ・行事や活動で使ったもの
 - ・学習カード、新聞、日記、作文、絵、下書きメモ、ノート等
 - ・思い出や記念の品物・写真



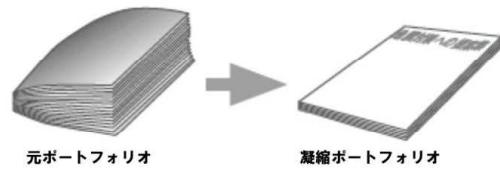
(3) 評価を数値化しない

- 一人一人のよさを認め、励ますものになるようとする。その時、その時で、成長の度合いや事情・状況が違う。点でなく線で見て、認め励ますものになるようとする。
- 将来にわたって夢を叶えるツールである。自己肯定感・自尊感情を下げるような評

価はしない。その子の未来につながる評価をする。

(4) はじめから枚数を限定して入れない

- キャリア・パスポートは、凝縮ポートフォリオ（元ポートフォリオから選りすぐりのものを選んで入れたもの）である。したがって、キャリアアルバム（元ポートフォリオ）に1年間子どもが蓄積したものの中から、自分の将来を考え、限定された枚数を年度末に子どもが自ら選んでキャリア・パスポート（凝縮ポートフォリオ）に入れる。この作業が大切である。キャリア教育で育成すべき基礎的・汎用的能力（自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力等）を育み、自己成長させることにつながる。



指導者が、年度初めから枚数を限定し、決められたシートだけを入れると、受け身になり、主体的なキャリア形成能力は育まれにくい。

- 小学校の低学年の段階では、指導者が入れるものも決めるのも考えられるが、年々その経験を重ねることで、自分にとって価値あるもの（将来につながるもの）を入れることが本人に理解できるようになる。
- 限定の枚数を子ども自身が選ぶ際に、中学・高校、将来まで持つてあがることを意識させることが大切である。

(5) いつでも使えるところに → [活用例3]

- ふだん使うキャリアアルバム（元ポートフォリオ）は、使いたい時に使えないとい意味がないので、自由に出し入れできるところで保管することが大切である。
- 個人情報には留意はするが、子ども同士や保護者が見てもよい程度のものを入れる。1~2年間使用するキャリア・パスポート（凝縮ポートフォリオ）は、しっかりと管理する。

(6) すべてにコメント・朱書きは必要ない → [活用例2]

- キャリア・パスポート（キャリアアルバム）を通して、子どもと対話的に関わるものである。しかし、コメントを書くことだけが対話的関わりではない。どんなものを入れたのか、なぜ入れているのか等、子どもとコミュニケーションをとることが大切である。また、キャリアアルバムに入れたり書いたりする活動の際に、指導者が付箋に簡単なコメントを書いて渡すものよい。
- 面談時や子ども同士がキャリア・パスポートを見せ合う活動の際に、指導者が付箋にコメントを書いて渡すことも考えられる。（アイディアがよい。この新聞記事いいね。）

(7) 保護者との対話的関わりは懇談会がチャンス

- キャリア・パスポートの保護者との対話的関わりは、学級懇談会や学期末の個人懇談会の際に、子どものキャリア・パスポート（キャリアアルバム）を見せながら話をするとよい。子どものよさを確認しながら、今後の成長を見通した話し合いになり、充実した時間となる。話す内容も終始、子どもに寄り添ったものになる。

(8) 互いに見せ合う場の設定 → [活用例4]

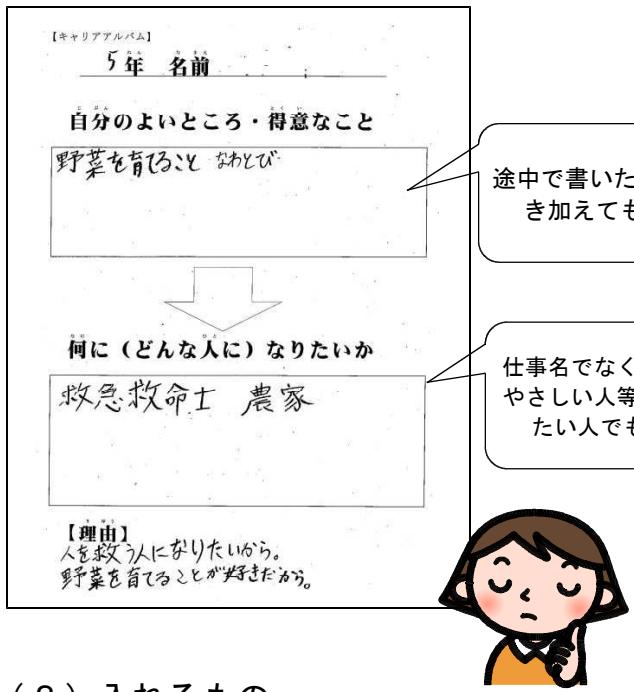
- 互いに見せ合う場を年2、3回設定するとよい。見せ合いで、互いの思いを知り、認め合うことにつながる。また、他者と比べながら自分が発表することで、自分を知ることにもなる。（クラスの状況に応じて学級全体や班で行う等考えられる。）



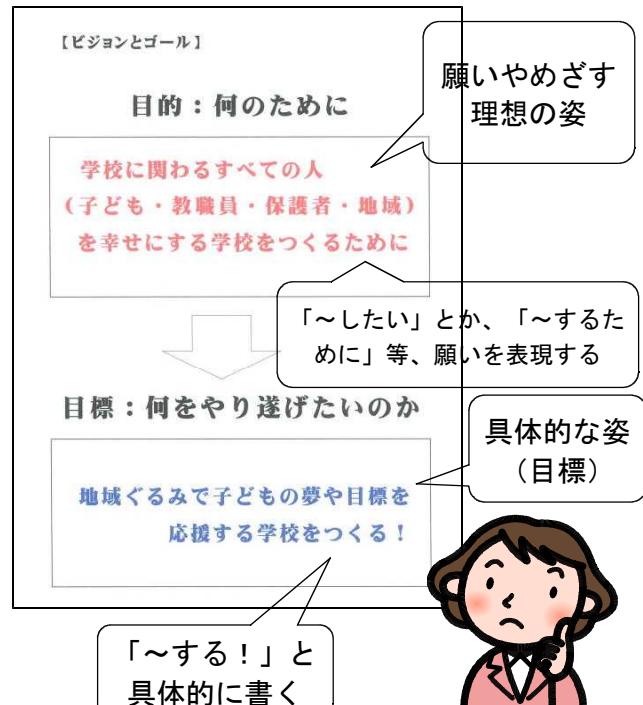
7 活用例

(1) ビジョンとゴール（これをいつでも見ることができる表紙にする）

【子ども用】

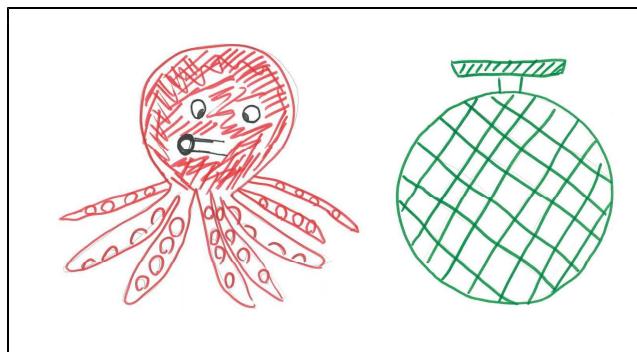


【大人用】



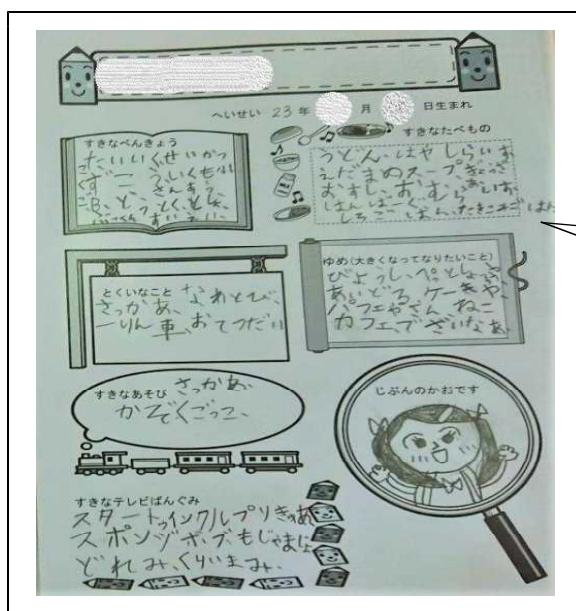
(2) 入れるもの

【子ども用】



縦割り班活動の際に、5年生が1年生のために描いた絵。1年生のためにがんばった自分を残している。

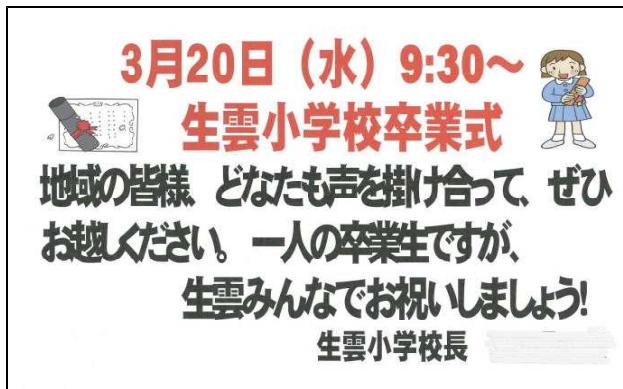
※ その子の思い、資質能力が見えてくる。
人のために役立っているという気持ちも高まる。



今の「自分を見つめる」シート。得意なことや好きなこと等、その子のよさを見ることができる。

※ 今の自分を客観的に見つめるシート。1年に1回、こうした「自分を見つめる時間」があるとよい。自分を見つめるシートは、文科省や県のシートの見本があるので、それを活用してもよい。

【大人用】



地域ぐるみで子どもの卒業式をお祝いしてほしい願いで、生雲のいろいろなところにこのポスターを貼り、呼びかけた。
(これは、ある方の投書でFM山口で紹介された。)

※ 自分のビジョンとゴールに向けて、本人の思いと具体的な行動が見える。

(3) 置いておく場所



子どもが、いつでも見ること、入れることができる教室がよい。決まったものだけでなく、子どもが入れたいものを自由に入れさせ、どんなものが入っているのか、ときどき見てみるとよい。

※ 1年間使用するファイル（元ポートフォオ）であるキャリアアルバムは、教室に置いておき、いつでも手に取れるようにする。
12年間使用するキャリア・パスポートは、別の所に保管しておくとよい。（人に見られたくない等、配慮を要する子がいる場合は、置き場所を考える必要がある。）

(4) 互いに見せ合う場



定期的に（年2～3回）互いに見せ合う場を設定することで、どんなものを入れるとよいのかヒントになり、内容充実のための刺激になる。

※ 互いに見せ合う場を設定する時には、付箋を持っておき、発表が終わり次第互いに気づきを書いた付箋を渡す活動を入れる。気づきはプラスの気づきを書くことを決めておく。この活動は、自尊感情・自己肯定感を高めるために貴重な時間となる。

終わりに

キャリア・パスポートは、決して受け身にならないように能動的に活用できるようにしたい。そのためには、指導者自身が、自己成長のためのツールとして実践し、その実践の手応え（+、-）を子どもの指導に生かしていきたい。

〔参考文献〕

「ポートフォリオで評価革命！」

鈴木敏恵著

学事出版

「ポートフォリオで未来教育」

鈴木敏恵著

日本看護協会出版会